



The Star in the West

東京西ワイズメンズクラブ会報

THE SERVICE CLUB FOR THE YMCA

THEY'S MEN'S CLUB OF TOKYO-NISHI(03)3202-0342

c/o TOKYO YMCA YAMATE CENTER, 2-18-2 NISHIWASEDA, SHINJUKU-KU, TOKYO 169-0051, JAPAN

国際会長主題
アジア会長主題
東日本区理事主題
あずさ部部長主題
東京西クラブ会長主題

“Misson with Faith” 「信念あるミッション」
“Through Love. Service” 「愛をもって奉仕しよう」
「原点に立って、未来へステップ」
「ワイズメンとして一歩前進」
「少しでも前へ進もう そしてあがいてみようこの一年」

2016年5月号

NO 477

知恵ある人に与えれば、彼は知恵を増す。神に従う人に知恵を与えれば、彼は説得力を増す。
主を畏れることは知恵の初め 聖なる方を知ることは分別の初め。 旧約聖書箴言9章10・11節

担当主事10年間の想い出

前担当主事 小畑貴裕

初めての担当主事でした。担当主事の役割は、クラブメンバーの方々に YMCA の活動報告をすることが大切な役割だと伝えられたのは覚えています。確かにそうなのですが、それ以上でもそれ以下でもない漠然としたものでした。「判らないことが判らない」という感じでスタートを致しましたが、入会前に当時のクラブの堀内会長にホテル学校にお越しいただき、いろいろとお話をお伺いできたことが非常に有難かったのを思い出します。堀内さん流のウェルカムなメッセージと「一緒に楽しみましょう」という雰囲気気が溢れていたもので、不安よりも楽しみなスタートになりました。

今思うと、担当主事の役割(YMCA の活動報告)を実行する前に、大事なことがあったように思います。それは、クラブメンバーの方々を知ること、そして自分を知って頂くことです。続いてクラブの活動を知ること。最後に自身の YMCA での働きと、YMCA

全体の活動を知って頂き、またご意見をお聞かせ頂くことの繰り返しですが担当主事のシゴトなのだと思います。実際は、メンバーの方々と少しでも多くの時間を共有してワイズライフと一緒に楽しむことが担当主事の私なりの姿だったように思います。

東京西クラブの担当主事をさせて頂いて3年を経た頃でした。山田さんから「小畑さん、ホテル学校のために何かクラブとして出来ることはありませんか？」とお声掛けを頂きました。とても嬉しかったことを思い出します。その時、いろいろと考えたのですが、何か学生との繋がりを作り出せないかと思って私費留学生への奨励金ファンドをお願いしました。それまで、専門学校をサポートするクラブが無かったようでしたから、このファンドの設立は担当主事冥利に尽きる思い出です。10年間、とても楽しい担当主事ワイズライフでした。ありがとうございました。

風薫る多摩丘陵歩き WHO198回は百草園

戦前からの多摩丘陵のハイキングコースが開発の波をかぶり消えました。それでも部分的には、面影を残します。緑がまぶしい京王百草園を中心に多摩の丘の道を歩きます。アルティジャーノ・ジェラテリアは、地元酪農家のアイスクリーム店。

期 日：5月21日(第3土曜日)

コース：京王線・聖蹟桜ヶ丘駅<タクシー>京王百草園
百草八幡神社-六地藏-アルティジャーノ・ジェラテリア-大栗川-並木公園-徳寿寺-原峰公園-熊野神社-京王線・聖蹟桜ヶ丘駅

集 合：京王線聖蹟桜ヶ丘駅西口
9:40

解 散：京王線聖蹟桜ヶ丘駅
14:30

参加費：300円(交通費・施設利用料は各自負担。今回は入園料はなし)

携行品：昼食、飲物、雨具、敷物

クラブ役員
会 長 大野 貞次
副 会 長 高嶋美知子
書 記 篠原 文恵
会 計 石井 元子
担当主事 宮崎 純

4月の記録		ニコニコ	17,551円
在籍者数 17人 (内功労会員) 1人	メネット 1人	クラブファンド	38円
例会出席者数 14人	コメント 0人	ファンド残高	343,424円
メーキャップ 1人	ビジター 5人	ホテ校ファンド	8,500円
出席率 94%	ゲスト 0人	ホテ校残高	194,808円
前月修正 -	出席者合計 20人	WHO参加者	38人

5月例会のご案内

今月の強調テーマ： EF/JEF

受付 高嶋美知子
司会 河原崎和美

街路樹のいちょうの緑が日に日に色濃くなっていきます。

5月例会は、西川喬也さんをお招きしてお話を伺います。クラブとしても目新しいテーマのお話ですので、興味を覚えます。

お知り合い、友人を誘ってご出席ください。

日時：5月19日(木)18:45~21:00

会場：「あんさんぶる荻窪」5F 第2会議室

(杉並区荻窪5-15-13 TEL/03-3398-3191)

会費：1,500円(ゲスト、ビジター、メネット)

担当：B班(神谷、河原崎、高嶋、竹内)

HAPPY BIRTHDAY

3月現在、在籍者には該当なし。

開会点鐘 大野 会長
ワイズソング
聖書朗読・感謝 竹内 隆
挨拶と紹介 大野 会長
会食と歓談 一 同

卓話 「キリスト教と
ハーバード交渉プロジェクト」
西川喬也さん

ハッピーバースデー
ワイズ報告 大野会長他
YMCA報告 宮崎 主事
スピーチ(ニコニコ) 一 同
閉会点鐘 大野 会長

ー4月事務会報告ー

日時：4月28日(木)

19:00~20:20

場所：荻窪・ピアンタ

出席者：石井、大野、神谷、木原、
篠原、本川

<報告事項>

- ①4月のデータを確認した。
- ②4月の経常会計を承認した。
- ③会員の近況が報告された。
- ④4月23日の富士五湖クラブ主催「フライング大会」参加者：
大野、神谷、篠原

<協議事項・例会関係>

▲6月例会

日時：6月16日(木)

会場：あんさんぶる荻窪5F
クラブ年次総会を予定

担当：C班 山田利、小山、
鳥越、本川、宮崎

▲7月例会

日時：7月21日(木)

会場：未定

卓話：未定

担当：A班 吉田、石井、木原、
篠原、堀内、山田紀

<協議事項・例会以外>

- ①第3回あずさ部「アイリス評議会」

日時：5月14日(土)12時30分

出席予定者：大野、石井、神谷、
篠原、高嶋、本川

- ②熊本地震被災救援基金について：クラブとして5月例会で募金を行い送金することを決定。

- ③東京多摩みなみクラブ設立総会

日時：5月22日(日)15:00~

会場：コンティ多摩センター
会費：5,000円

- ④石巻広域クラブチャーターナイト

日時：5月28日(土)14:00~

会場：石巻グランドホテル
会費：7,000円

同クラブは、仙台、仙台青葉城、仙台青葉城がスポンサーで、被災地に生まれるクラブ。

- ⑤東京多摩みなみクラブチャーターナイト：

日時：7月17日(日)午後3時

会場：コンティ多摩センター

同クラブは、東京まちだクラブの25周年、東京コスモスクラブの20周年記念事業として設立取り組みがなされた。

- ⑥創立40周年記念で発行するWHOコース集の表紙のデザインが大野会長から提供された。

(書記・篠原文恵)

卓話者紹介

西川喬也(にしかわ・たかなり)さん

1973年、システムエンジニアとして日本IBM社に入社。主に金融関係を顧客とした。1995年~1998年、米国IBM本社に勤務。帰国後日本IBMで研究講師に就任した。

以後15年にわたり、主としてボストンCMI社の公認講師として「ハーバード交渉スキルコース」を担当した。受講者は約2万人。

現在は、都庁観光サービス、杉並介護応援団、まちの塾フリー・ビーなどでボランティアを行っている。杉並育ち、杉並在住。





卓話者の小山久恵さん

－ 4 月例会報告－ 久しぶりの入会式も

桜は散ってしまったが、4月21日は待望の入会式を併催しての例会となった。卓話のお客様は東京サンライズクラブの小山久恵さん、旅好きな当クラブメンバーの期待通りの「BF 代表として豪州の旅」が始まった。

豪州は、南東部にしかクラブがなくなっていて、サウスパシフィックエリアコンベンション（南太平洋地域大会）に参加したあと、ホームステイしながら12クラブを約1か月かけて訪問なさったとのこと。

広大な地域に散らばるクラブ訪問では移動だけで1泊以上かかったところもあり、女性ならではの視点で映像と共に語られた。

殆どのクラブは YMCA 内に専用室を持ち、バナーなどが常設展示され地域に溶け込んでいる。例会運営もラフなスタイルで、初めにアルコールで親睦を図り、その流れで、開会点鐘・聖句も省略というクラブもあったという話が印象に残った。

また、スパクラブという若者のクラブは、例会をもたないでネットで奉仕活動の呼びかけ、連絡を取り合うそうだ。

卓話が終わり、片平進一さんと4月から着任された宮崎純新主事の入会式が行われた。ろうそくの灯りで誓いの言葉が交わされる光景は、いつも感動を覚える。

小畑貴裕さんは、10年間当クラブの担当主事を務められ、目に見える形で私たちと接して下さり、

クラブ入会式で、誓いの言葉を述べる
写真左から大野会長、片平進一さん、宮崎純新主事

メンバーからも感謝の声が寄せられた。40周年祝会までは、応援のために荻窪を訪ねて下さるそうである。（篠原文恵）

出席者：石井・大野・片平・神谷・河原崎・小山・篠原・高嶋・竹内・鳥越・本川・宮崎・山田利・吉田、
<メネット>神谷、<ビジター>小山久恵さん・小山憲彦さん（東京サンライズ）、佐藤茂美さん（東京）、小口多津子さん（東京八王子）、小畑貴裕さん（東京まちだ）、
<MU>木原（4月事務会）

－ 197回WHO報告－ 春の荒川土手の道



4月23日、JR赤羽駅に38人が集合。このくらいの人数が動きやすい。旧日光御成道の旧岩淵宿にある大満寺、正光院、八雲に立ち寄り、都区内で唯一の酒造所・小山酒造を門外から覗いて新河岸川土手から新荒川大橋を渡る。眼下に川口パブリックゴルフ場を見下ろしながら、荒川左岸の土手の道を下る。

野草が今が盛りと春の花を競っている。渡る風も心地が良い。広い空、対岸の景色ものどか。

ただ、舗装された、ほぼ一直線の道は、単調で疲れやすいのか、11時半ぐらいから、昼食時間を気にする声が出始めた。

“清流ルネッサンス”として川口で取水された荒川の水が14kmのトンネルによって荒川に注ぐ綾瀬川などの河川に送られて、水質浄化、水量増加がなされている。

その送水トンネルの上部にメトロ南北線が走っているとのこと。歩き始めて約15,000歩、新芝川が荒川に合流する地点にある都市農業公園の木陰で1時間の昼食休憩。ここは、江戸東京の野菜の供給地であった足立の農業を伝え、自然との共生を学ぶ公園。昼食後、江北五色桜のうち、まだ花の残っている桜花を鑑賞。地元から移築された、古民家、長屋門をめぐり、古い農機具の展示館を楽しんだ。

案外時間をとったのが野菜畑。数多くの春野菜が栽培され、夏野菜が播種されていた。男爵とメイクイン、キタノアカリ、普通の馬鈴薯の苗を見比べた。ここでもわか農学博士が登場。再び、土手の道を歩き、環7通りを横切った

先で土手を下り、熊之木ひろばで休憩、バス操車場で解散。17,000歩。バスは、池袋行や、田端駅、お茶の水駅経由の東京駅八重洲口行があり、日暮里舎人ライナーの開通までは、山手線と結ぶ鉄路がなく、陸の孤島と言われた時代を思い浮かべた。（吉田明弘）

ワイズ関係の参加者は、石井・吉田（東京西）、中澤（東京たんぽぽ）、関（石巻広域）。

写真は、5月のWHO・荒川左岸の富士山ビューポイントから。

ペンタゴンDBCと 震災支援活動 その2

(2月号掲載の「ペンタゴンDBC
と震災支援」の続き)

現在までの支援活動の概略は、次の通りである。

▲2011年6月に開催された東日本区大会において盛岡クラブ、仙台クラブ、仙台青葉城クラブ、仙台広瀬川クラブに各30万円、自宅全壊の方に3万円の見舞金を贈呈した。4クラブは、盛岡YMCA、仙台YMCAの救援活動支援に用いたと聞いている。

▲同年10月29日～31日にペンタゴンDBC有志で被災地慰霊旅行を行った。参加者は、東京西1人、京都ウエスト2人、大阪西2人、神戸西1人の6人であった。仙台3クラブのメンバーが3日間案内係を務めてくださった。

仙台YMCAに被災支援活動費として30万円贈呈した。

▲仙台YMCAが、同幼稚園に仙台に避難してきた幼稚園児2人を受け入れることになったので、これを支援する仙台3クラブの要請を受け、卒園までの3年間にわたり合計150万円を仙台3クラブに託した。

▲仙台YMCAが恒例の同YMCA少年サッカー大会に被災地小学生サッカーチームを招待した。この大会に対して支援仙台3クラブを介して、主に参加賞品として2013年には40万円、2014年には6万円、2015年には3万円、合計49万円を贈呈した。この大会にペンタゴンDBCメンバーも応援に参加した。

▲宮城県下の被災地各地の地元の団体が、各地に震災を忘れないための記念碑の建設を行っている。その一環である第28番目の記念碑「津波の石碑」が石巻市雄勝町名振地区に建立された。この碑の建立には仙台YMCA、仙台3クラブが応援している。ペンタゴンDBCも仙台3クラブと協同し10万円を同3クラブに贈呈した。こ



石巻市雄勝町名振地区の海岸付近の高所に、ペンタゴンDBCも協力して建立された「津波の石碑」。(石碑の上に飾られている少女の表情がとても可愛い)

この碑の除幕式・感謝会が2月27日(土)に行われ、これに東京西2人、京都ウエスト3人、大阪西2人、神戸西1人の8人が参加した。

除幕式終了後、漁協会館で感謝会が開かれ、振る舞われた海鮮料理をいただき、最後に東日本区を代表して渡辺隆東日本区理事があいさつした。

地震、津波の被害を受けられた方々が、よく言われているようにこの被災を決して忘れまい、被災されなかった人々にも忘れてほしくないとの思いを持っておられる。この思いは我々も共感でき、微々たることしかできないが、できるだけことはしたいものである。その思いがペンタゴンDBCにあっては、人的支援延19人、支援金368万円となって表われている。(神谷幸男)

大阪西クラブ スプリング フェスタin木器窯参加記



大阪西クラブと東京西クラブの女性メンバー・メネットのくつろぎのひととき

もう何回目になるだろうか、大阪西クラブ4月29日の恒例行事、スプリングフェスタ in 木器窯に参加した。今年は、春が足早に過ぎ去ったためか、例年は見事に満開の八重桜は、殆ど散ってしまっただけで、わずかに花が残るのみ。しかも若干肌寒さも感じられる日和であった。

正午の開会はワイズソングに始まり、清水誠治郎会長による開会あいさつ。今年は25回目ということで、25年間会場と接待を提供していただいている木器窯・田中和人窯主への感謝が述べられた。また、熊本地震支援に触れ、我々にはできるだけの支援をしようではないか、品物は仕分けと配布が人手不足で困難である、ボランティアも40歳以下の若い人ならば良いが、それ以上の人はかえって支援活動の妨げになることがあるようである。だから我々は必要な物資を必要な時に調達することができる業者を利用するための、現金を支援することが最も重要であるからお金を集めようとアピールされた。

続いて参加クラブ代表の祝辞、とあいさつ、大阪西クラブの新人2人(1人は40歳、もう1人は29歳)の紹介があつて、食前感謝と乾杯でお楽しみ会食となった。豊富に提供された野菜料理と三田牛のステーキそしてワインとビールを楽しみながら、旧友と新たな出会いの交流を深めることができた。

閉会式では、25周年を記念して記念品として自然木で作られた“木器”と書かれた額と、神戸西クラブから特殊字体で“木器”書かれた額入り色紙が木器窯の田中和人窯主に贈呈された。清水会長の閉会あいさつをもってお開きとなった。東京西クラブからは、高嶋さんと神谷、神谷Mが参加した。

(神谷幸男)

☆☆ インタビュー ☆☆ 青木一芳さんに聴く

* * *

青木一芳さんは1994-95年度国際会長、クラブでは長年、ブリテンエディター。



—青木さんは、広島出身ですか。

「生まれは千葉市です。国民学校(小学校)3年生の時茨城に疎開、福島に移りました。東京で大学と修士課程を終えて、広島の国立大学に助手として就職しました」

—広島から東京の私大に専任講師として移り、数学を教えられていたとか。どうしたら数学って好きになれるのですか。

「高校時代は学校新聞づくりに明け暮れていたのに、何を間違えたのか理科系に進みました。数学は“科学の言葉”というところに新聞と共通点があるのかなあ」

—私が初めてお目にかかったのは、宝塚での日本区大会で、幼い娘さんを2人連れられて、舞台上に上がられた時でした。

「1972年、チャーターしたての千葉クラブのメンバーとして初参加の区大会でしたね。娘めぐみが4歳、のぞみが2歳でした」

—YMCA やワイズとの接点は、広島時代にあったのですか。

「全然。ただ、私は広島流川教会で受洗、千葉に移ってから関東在住のこの教会の関係者に“流川だより”を配信していたところ、その受信者の1人で後に区理事になられた故田中眞さん(東京)の目に留まって、千葉YMCAとワイズの設立に誘われたのです」

—迷われましたか。

「当時大学紛争の最中で、私は“専門バカ”と言われたくない。初めて知ったYやワイズに加わって、広く青年を育てる働きに賭けてみたい、と思ったのです」

—すぐに馴染めましたか。

「田中さんに“ワイズでは頼まれたらなんでもやる!”と言われ、そういうものかと」

—デザインもされますね。数学と共通点ってあるのですか。

「父親が画家だったので、影響があると思います。末弟は彫刻家になりました。数学とデザインの関係は奥深いものがあります」

—郵便切手のデザインをされたこともありますね。

「1990年に京都で国際数学会議があって、そのロゴに応募して、“京”の字を石灯籠としたデザインでしたが、採用されました。その後、同会議の記念切手作成にも関わり、娘の作った折り紙の多面体が郵政省の技官に採用されたのです。旧日本区のパナーは、いつだったか頼まれてデザインしました。それが、東西日本区に引き継がれています」

—1979年には、スウェーデンに行かれましたね。

「大学に、在外研究という制度があり、半年間、イエテボリ大学に行きました。家族も一緒に、多くの北欧のワイズメンと親しくなることができました」

—1994-95年度に国際会長に就かれました。

「85-86年度日本区理事、87-90年度国際議員、88-89年度アジア地域会長、と務め、もういいと思ったのですが、竹内敏朗さん(熱海グローリー)や田中さんの推薦があったのでしょね」

—その時期の国際の問題点や、関心はどこにありましたか。

「87年ナイジェリアのラゴスでの国際議会でワイズ発展の壮大な計画が打ち出されました。あまり大胆だったので、その後修正され、94年頃は“ビジョン”が重

要視されました」

—青木さんの英語について、元国際書記長のイングバー・ワリンが、『正確な英語』と褒めていたと聞いたことがあります。

「学校英語だけのお寒い力量でした。国際の会議に放り込まれ、冷や汗と悔し涙で何とか身につけたスウェーデン風味の英語です」

—1977年に、ユースコンボケーションの前身といわれる、ハワイ集会に高校生を連れて、参加されたことがありましたね。

「はい。熱海大会の2年後で、私と家族の海外初体験＝国際への船出の第一歩でした」

—当時、ユースに対する関心が、日本区にはあまりありませんでした。

「そうでしたね。YEOP事業はありましたが、88年京都国際大会のときも、ユースの集いを併催する気運は小さかったのですが、私ほか少数の者ががんばって実現させました」

—青木さんは、ボランティアで千葉YMCAの総主事もやられたのですか。

「2007年大学を定年退職し、その後09年から急な事情で総主事代行を結局5年間、ボランティアで奉仕しました」

—クラブでは、万年ブリテンエディター。

「かなり初期のころからやっています。高校時代には新聞部にいましたから、苦になりません。でももう、次の人にとっています。が、なかなか引き継ぎません」

—今、ワイズの高齢化が言われます。特に、若者が群れることを嫌う傾向があります。このあたりをどうお考えですか。

「若者は若い易く、年寄は歳を取るのを忘れている、というのが私の感想です。私たちが元気な間は、若者に学びと活躍の場を提供し、あとはよろしくというほかないのでは」

—有難うございました。(吉田明弘)

埋もれ木の記⑤

—手術後の痛み—

木原 洸

手術後の痛みの相関関係はデシベル値と感ずる。数ある痛みの絶対性とは比較の問題であり、ある1つの傷の痛みの数値より他の傷の痛みの数値が大きくなれば、痛みを感じる場所が移転するだけで、痛みの問題は解決されていない。

身体中が傷だらけだから止むを得ないと思ひ、諦めるより仕方がない。胸部には大きな手術跡が2か所、腹部にも2か所ある。点滴の管は20本以上。

3月3日(第1次)は食道の切開手術。食道がなくなってしまったので、腹壁を切開して空腸(十二指腸に続く小腸の一部)に管を通し、人工的な栄養をすべて注入(鉄分・カルシウム等を含む)。「生かされている…」という感を

否めない。

3月3日(第1次)の手術の傷も癒えて、ようやく第2次(4月10日)の手術。大腸の一部を切りとり、切除した食道部分につなげる手術。本来、食道を切除したあと胃を引き上げて繋げるのだが、私の場合、過去に胃がんで胃を失っているため、大腸をその代わりに切りとり繋げる。残った大腸の縫合と食道部分に繋げる縫合が、両方とも成功するかどうか、持病もあるので合併症のリスクも高い。ドクターを信じて、運を天に任せるしかない。

第2次手術の傷跡の痛みが止まらない。冗談やダジャレで気を紛らわせて何とかしようとするが、痛みから逃れることはできない。「(City Boy)(CT ボウイ)

も痛みには勝てない」とニヒルに笑って言ったら、ベテラン看護師に(CT じいじ)でしょと言われた。

ようやく痛みも落ち着いて、5月10日から重湯が食べられるようになった。20本以上あった点滴の管も徐々に外された。入院中、真面目にリハビリに励んだので呑み込む力も増し、退院が見えてきた。

空腸を通した管は、まだ抜くことはできない。退院後、自宅療養中に食べられない時や、体重が急激に減った時には、栄養を注入しなければならないからだ。

それでも5月17日、100日も及ぶ長い入院生活に終止符を打つことができた。

親友 星輝さんのこと

神谷幸男

星輝さんの俳句を紹介します。星輝さんは、今は南浦和にお住まいで、療養しておられますが、かつて荻窪に住んでおられました。その頃に、故石井一也さんが我々に紹介してくださった方です。

荻窪のお宅は、大野貞次さんのお宅のすじ向かいのマンションで、ある時、彼に招かれて故石井さん、大野さん、中田靖泰さん、神谷らが集まって男料理を楽しみ、大いに語り合ったこともあり。また、石井さん、大野さんらと共にフロストバレーYMCAに本間さんを訪ねて数日間ここで遊び過ごしたこともあり。この間ワイズメンズクラブに誘いましたが、入会には至りませんでした。その後、病を得られ、入退院を繰り返され、今は俳句も楽しみながら療養に専念しておられます。当クラブのブリテンは毎月お届けしています。

加賀てまり金糸銀糸の春まとい
園児等の風をまるめてシャボン玉
桜餅類ほんのりと染まりけり
切り絵めく蔵の街にも初燕
老いる事五感に刻みヒヤシンス
病む春や幼き子より千羽鶴

最近、この6句を送っていただきました。第1句は全国俳句大会で特選に、第2句は第6位に選ばれたとのこと。昨年4月にはNHKの俳句大会で金沢に、毎週各地での大会に参加して頑張っておられる由。

風薫る湯島聖堂ひとり歩す
江戸かつぐ神田明神荒神輿

早期ご回復を祈り願ひ、お元気になられたとき、またしつこくワイズにお誘いしたいと思っています。

編集後記

東京西クラブの担当主事として10年間お付き合いいただき、今般転出された小畑貴裕さんに、担当主事から見たワイズメンズクラブについて寄稿いただきました。大変感謝です。

3週間にも及ぶ激しい揺れに、しかもいつ終焉するか見通しがつかない揺れに難儀している多くの熊本、大分地方の方々がおられることに心が痛みます。多くの家を失い、また失わなくても住むことができなくなって、肉体的精神的にダメージを受けておられます。

また、多くのワイズメン、YMCAの方々は、不眠不休で救援に携わっておられるとのこと。「私たちもできるだけの支援をしよう」との思いで支援金を集めて、支援しようではではありませんか。

(S.K)